

## □ アナリスト週間相場予想

	原油 Oil	ガソリン Oil	灯油 Oil
江崎			
西			

## Pick up News

〔注目スケジュール〕  
11/5 原油・石油製品供給統計週報（石油連盟）  
米エネルギー情報局（EIA）週間在庫統計  
7 米商品先物取引委員会（CFTC）建玉報告

## □ テクニカル分析（担当：西 勝之）



エネルギー市場は10/30にストップ高まで買われて本日反落。チャートは東京ガソリンだが、テクニカル的には未だダウントレンド終了とは断じ難い。標準偏差 $-2\sigma$ からは実線が上に離れた為下降バンドウォークは一旦終了している。そして現在は標準偏差 $-1\sigma$ 近辺でもみ合っているものの方向感には乏しい。というのは一番最近の下降バンドウォークは10月月初から始まっていたが、この月末になってやっと終息、ボリンジャーバンド自体の動きは $-2\sigma$ が横這いに転じ、 $+2\sigma$ は下降中、これはトレンドが一旦終了する事を意味する。次のトレンド形成の条件は日足が $-2\sigma$ に接触するか、逆に中心線を上に抜ける事。現在の値段ではどちらからも同じ距離に日足がある為（だから $-1\sigma$ 近辺で推移しているのだが）底値圏での大きなレンジとなる公算が高い。そしてレンジでの推移を予測するにも関わらず現状の変動率は極めて高く、“安値波乱”の展開が予見される。よって片張りよりはスプレッド戦略が有効であろう。具体的にはエネルギーセクターのプレイヤーが目をつけるべきスプレッドとして今週は製品5月限をガソリン買い一灯油売りで攻めたい。この値差はヒストリカルを見ても仕掛ける価値があるのではないだろうか。（10/31 14:45現在）

## □ ファンダメンタル分析（担当：江崎 和弘）

OPEC（石油輸出国機構）は日量150万バレルの減産を決め、11月1日から実施に踏み込むこととなった。さらには余剰原油が発生し、買い手が不在となった場合には、追加減産を即時実行するとのタカ派的なコメントを付け加えることも忘れなかった。具体的な想定レンジに正式には言及していないが、産油国代表者のメッセージにはNY原油で70ドルが目標であることが窺われる。つまり、60ドル台では不服であり、ましてやこのまま下落を続けることは全力で阻止するとの意向を明確に示したものだ。こうした背景には、産油国が国家歳入の前提条件としているレート（各国で事情は異なるが、およそ50~60ドル）が視野に入ったことがある。危機感はかなり大きく、ここから先の買い圧力要因として無視できないことに留意したい。

原油を巡る環境は上記のような感じだが、市場関係者の視線は金融市場を向いており、まずは株価がしっかりと反転できるかどうか、その際にドル安トレンドへの変化を伴うかが重要視されている。協調利下げの後、FOMCは追加利下げに動き、日銀も追随した。この後にはオーストラリア、英国、欧州（EU）の政策金利発表が控えている。言わば準協調利下げ体制であり、世界的に金融緩和の流れは確定していると言ってよい。金融緩和が实体经济に好影響を与えるには時間が必要だが、景気に先行して動くと思われる株価が持ち直せば、原油相場もまた立ち直ってくるの見方ができる。急速な原油高は景気を冷やすことでマイナスとなるが、このまま下げ続けると産油国にダメージとなり、オイルマネーの流れも止まりかねない。60~70ドル近辺で安定的に推移するのが理想と言えよう。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0066（許可取得日08/10/31）